2024 年 8 月 4 日　週間祈りカード

△区域メッセージ第 31 週

237 の庭と永遠の答え(使 2:10)

□本論
1.契約(Covenant) -光-正確な契約を握れば良い。光を伝達するために呼ばれたことを知っていることが、正確に契約を握ったこと。
1)創 12:1-3(創 13:14-18)神様がアブラハムに全世界を見渡しなさいと言われたが、信じなくて苦労した。不信仰を捨ててロトを送り出した後に祈りで契約を握った。
2)創 39:1-6 ヨセフに 237-5000 種族のみことばが臨んだ。
3)Ｉサム 1:9-11 祈りの答えがなかったハンナに、このみことばが臨んだ。
4)Ｉ列 18:1-15 オバデヤに臨んだ神様のみことば
5)ダニ 1:8-9 捕虜になって行ったとき、正確な契約を握った。
6)Ｉペテ 2:9 あなたがたは王である祭司だ。
2.237-5000 祈り
1)使 2:10 神様が初代教会、マルコの屋上の部屋に働き
2)ローマには 237 か国があり、5 千種族を奴隷として連れてきた。
3)使 18:24-28 プリスカ夫婦を通してマルコの屋上の部屋の働きを聞いて、アポロが力を受けて、みことばを広く伝えた。
4)使 2:17-18 -正確に神様が未来を見せられる
3.現場弟子
1)使 13:1-12 パウロの最初の宣教地
(1)使 13:1-5 完ぺきに聖霊の導きを受ける祈り
(2)使 13:6-11 暗闇が打ち砕かれてしまう
(3)使 13:12 総督が衝撃を受けて、福音を受けた
2)使 14:14-20 -リステラで石に打たれたパウロが死なないで再び入って福音を伝えて得た人物がテモテだ。
3)使 16:6-40-伝道の門が閉ざされたときに、待って深く祈る中にマケドニアに来てくださいという幻を見て、行ってリディアに会って、悪霊につかれた者を治して、監獄に行ったのに働きが起こったところがピリピだ。
4)使 16:6-40-ヤソン。後ほどテサロニケ教会に変わる。当時、テサロニケにはローマにつながる道路があった。テサロニケは征服でないローマと疎通する水準
5)使 18:1-4 -プリスカ夫婦に会ったところがコリントだ。
6)使 19:1-7(エペソ) -マルコの屋上の部屋の働きをそのとおりに体験。病気の者が癒され始める、後ほど、ローマも見なければならない。
地域ごとに神様が弟子を隠しておかれた。このように、伝道は難しいことではなく、宝を掘り出すことだ。宣教は全世界に散らされた宝を掘り出すことだ。
□結論_礼拝する中で集中祈り。六日間は確認すること
1.絶対契約が見えてこそ、絶対やぐらを建てるようになる
2.300%答え-専門性、現場性、システムの答えを受けて行くべき
3.237- 5000 が私たちの基準

△聖日１部

約束を持った者たち（Ⅱコリ 7:1-9)

1.聖書が記録している苦しみの原因-ネフィリム
1)エデンの園事件-神のようになるという言葉に神様のみことばに不順従(ニューエイジ運動)
2)ノアの洪水時代-サタンに捕われるようになった(フリーメイソンの憑依運動)
3)バベルの塔運動-力を合わせて神様に敵対しようとしたが崩れた
△ネフィリムはサタンの働き-時空を超越して世界掌握、人物を作り出して瞑想運動→全世界が飢え渇いて精神病者がぎっしり埋まるようになった理由
2.このとき、教会がすること-紛争(5 節)
□序論_器を変えなさい。
1.イスラエルの器を変えなさい-選民、メシア思想、律法主義、キブツ運動
2.強大国の器を変えなさい-侵略、戦争、人身売買
3.弱小国の器を変えなさい-豊富な資源、人材、広い土地みな奪われること
□本論_神様の慰め
1.私の霊を生かす祈り-キリストが与えられたやぐらを私の慰めにしなさい。
1)創 1:27 神のかたちを植えた。創 2:7 神様のいのちの息を吹き込んだ。
2)イエス様が説明されたやぐら
(1)三位一体の神様(みことば成就、祈りの答え、救いの働き)
(2)御座(神の国とそのこと)　(3)過去、今日、未来を解決する答え
(4)私を生かす５力　(5)空中の権威を持つ支配者に勝つことができる力
(6)未来を確かに見る CVDIP　(7)三つの庭の力
2.私のからだを生かす祈り-神様が与えられた旅程を行きなさい。
1)三位一体の神様が働かれるその道　2) 10 の土台　3) 10 の奥義
4)どんな場合にも勝つ確信　5)地の果てまで証人になる流れ
6)一生の答え-地の果て　7)行く所ごとに起きる御座のキャンプ-証人
3.現場を生かす祈り-神様が与えられた道しるべで慰めを受けなさい。
1)力となるべき三つ
(1)使 13:1-5 聖霊の導きを完全に受ける祈り
(2)使 16:6-10 門がふさがったとき確実なターニングポイントを見つけ出した祈り
(3)使 19:1-7 ローマ、ティラノ運動以前にマルコの屋上の部屋の力を体験した祈り
2)所々に立つ道しるべ
(1)カルバリの丘(すべての問題解決)
(2)オリーブ山(御座のミッション伝達)
(3)マルコの屋上の部屋(力体験)　(4)アンティオキア教会(時代的な変化)
(5)アジア(完ぺきな聖霊の導き)
(6)トロアス(マケドニアに行くターニングポイント)
(7)ローマ(使 19:21、23:11、27:24)
□結論_ 6 節
1.人は神様のみことばで慰めなければならない。
2.成就した神様のみことばを持って慰めれば人が生かされる。
3.成就するみことばで慰めるのだ。

△聖日２部

二種類の悲しみ（Ⅱコリ 7:10-16)

なぜ伝道、宣教できないほど貧しいのか。なぜ家族皆が病気に苦しめられて何もできないのか。なぜ私たちは、教会は伝道ができないだろうか。真の悲しみをすれば神様は答えをくださる。正常な契約を握れば周囲に救われることに定められたた人と会うだろう。集まるだろう。
24 -私を生かす力=二つの生命の脈(霊とからだ/脳を生かす祈りの脈)握りなさい。
25 (神の国が臨んだこと)-そうしてこそ、世の中を生かすことができる。永遠のことを約束-そうしてこそ、時代を生かすことができる。
この部分を持って実行に移しなさい。少しだけ先んじれば 300%が出てくる。
神様の驚くべき奥義を味わうことができる-創 41:38
世の中の悲しみは滅びる、神様のみこころに添う悲しみは救いに至るのだ
□序論_世の中の悲しみをする人
1.アブラハムの前半部-うまくいくことがなかった。
2.モーセ 40 年-エジプトで出世しようとして逃げて出てきて、まことのことを見つけた。
3.サウル王-王座に長くいようとする心配（悲しみ）
4.アハブ王-世界化しようと異邦の宗教を持ってきた。
5.パリサイ人　1.ムスリム　2.3 団体掌握　3.瞑想運動(精神病者急増)
□本論_パウロの悲しみ
1.ユダヤ人伝道　1)律法主義者-これでなければならないと考えること
2)割礼派-救われても割礼は受けなければならないという。
3)派閥戦い-それゆえ、テトスを送った
2.マケドニア伝道-なぜ伝道しなければならないのか
1)偶像神殿で暗闇文化を作ったため
2)ギリシア文化が入ったところ
3)ローマの影響が及んでいる所-神殿を建てる。
3.ローマ伝道
1)AD70-イスラエル滅亡、神殿破壊。AD79-ボンペイ爆発。250 年間 10 人の皇帝がキリスト教徒を殺す。
2) 313 年-キリスト教、ローマ国教として宣言
3)世界教会を滅亡させたこと-大きい役割をしたのがカトリック
□結論
1.次世代を置いて悲しむ-３団体の下で仕えるしかない。３団体は財物を持って 5 千種族に入るだろう。
2.神様のみこころに添った悲しみ-神様を現わすようになる。(11-12 節)
3.患難-間違った解釈をする。
RT 7-まことの答えは患難、難しい時にみな受けた。答えを持って行った。答えを与えに行ったために、難しいことではない。これが(冒頭-24、25、永遠、実行、奥義)できているためだ。
△神様のみこころに添った悲しみ、特に福音を伝える悲しみ、まことの答えはそのときに受けた。切実に神様のみこころを探す祈りがあるようになることを願う。